

令和7年度 静間小学校の教育

学校教育目標

自ら学び 心豊かな たくましい 静間っ子を育てる

学校教育重点目標

気づき、考え、みんなで創り出す
～子ども主体の学びの文化・くらしの文化の創造～

気づき

- 「なぜ。どうなってるの。」 ○「泣いている人がいる。」
- 「やってみたい。」 ○「あいさつが気になるな。」
- 「解決したい。」 ○「言葉づかいが悪いな。」
- 「こんな方法で、流れで」 ○「全校、仲良くなりたいな。」
- ◎「気づき」から価値ある学習課題やめあてを醸成していく。
- ◎そのために、系統の中で単元をとらえる教材研究を通して引き出した「気づき」を明確にし、学びのプロセスを描く。

みんなで創り出す

考え

- 学びの方向性を大事にしながら、既習事項等を活用しながら、自分の方法で思考する（見方・考え方を働かせる）。
- 根拠をもって考え、言語化する（書ききる・伝える）。
- 学級や学校をよりよくするための方法を考える。
- 学習・活動の成果、自分（たち）の成長を振り返る。
→学びや学校生活へのエネルギーとなる。

めざす学校像

- 1 安心して学べる学校
 - 2 信頼される学校
 - 3 よさが発揮できる学校
- ### めざす教職員像
- 1 協働できる教職員
 - 2 信頼を築き、温かい人間関係を育む教職員
 - 3 学び続ける教職員
 - 4 積極的な研修参加
 - 4 自立した職員集団

- 考えたことを意見交流し、協働的・対話的に学びを深めたり、くらしを創ったりする。
↓獲得できるもの
- ☆多様な見方や考え方、思考・判断・表現、学びやくらしに生きて働く知識・技能、多様な学び方の獲得。
- ☆生きる支えとなる協働性・自治性の獲得。
- ☆いじめや不祥事のない学校風土の獲得。
- ☆安定感ある学校に五十猛小と鳥井小を招く。

重点目標実現のために

- 1 ①「学習指導要領の中の指導内容や育成すべき資質能力」と「子どもの見とり」から、②「引き出したい気づき（興味・関心、既習活用の見通し、働かせたい見方・考え方）」を洗い出す。③子どもたちが学習課題や学習内容の意味や価値を自覚させる。④学びの方向性を自分で描く。⑤思考・表現・協働の活性を促していく。を意識した授業展開をめざしてみよう。
その中で、困難が予想される子どもたちへの支援をどのようにしかけていくのか考えてみよう。
（気づき 考え みんなで創り出す授業＝見方・考え方を働かせた主体的・協働的な学習活動）
- 2 進路保障を基底に据えた指導と評価の充実（一人一人の評価を大切に。それを指導に活かす。【教師の原則】）
- 3 学習課題について情報収集→分類整理→まとめ・表現 の探究的な学習過程を大切に。その中で、手段としての学校図書館活用・ICT活用の積極的な推進をめざす。→「考え みんなで創り出す学び」はいっそう活性化。
（3・4年 ハマナスを教材とした探究的な学びの推進→ユネスコ表彰・実践発表）
- 4 特別支援のあり方を柔軟に弾力的に検討する（教育課程、関係機関・家庭との連携協働）→その子なりの「気づき 考え みんなで創り出す」学びの実現をめざす。
- 5 生徒指導と児童会のリンクにより、児童主体の自治的な活動を積み、児童主体のくらしの文化を創造する。
目標設定→実践→振り返り→成果・成長への実感→目標設定→実践 このサイクルの中でのくらし創りの確立をめざす。
- 6 「授業のため、学級のための時間を生み出し」また「統合に向けた」業務改善と勤務環境整備（随時協議・検討）

学校運営協議会と連携した「学校と地域のつながり」

- 年3回の学校運営協議会の中で、地域の思いや願いを確認し、経営に活かす（4・11・2月）。
- 学校統合に向けた取組を3校区の思いや願いを大切にしながら進める（教育課程・事前交流・安心安全面の配慮・備品整理・運営協議会組織 等）
- 学校の取組への参画（遠足・授業公開・児童総会・学校行事・学校行事前練習など）
- 3回目の学校運営協議会（2月実施）の中で、次年度の学校経営（改善策）への参画の仕方を協議する
- 校内の困難な事案（児童の問題行動、教職員の不祥事 等）にかかわる連携した対応をしていく。